

過疎集落における定住支援×関係人口創出策“地域維持レスキュー”の展開

和歌山県推薦都市農村交流アドバイザー（分野：観光交流）

白川 晶也（一般社団法人しろにし 理事）

1 弊社設立の経緯

弊社が拠点を置く和歌山県有田川町清水地域（旧清水町）。昭和 30 年代に約 13,000 人が暮らしていた山間のこのまちも、急激な過疎化が進み現在では約 2,000 人にまで減少しています。かつて、地域の主産業であった林業が衰退。そして、ぶどう山椒の発祥地であり、日本一の生産量を誇った山椒農家の平均年齢も、いまでは約 80 歳…。

「このままでは地域が消滅しかねない。自分たちがやろう」 そう地域事業者が動き始めたのは 2019 年でした。当初は地域の雇用対策として、“賄い付き共同社員寮”を整備することが目的でした。しかし、地元役場の支援をいただき外部有識者お二人の知見をいただくなかで、その想いは高く大きくなっていきます。“地域の人事部”として関係人口創出を通じた移住支援や事業者支援を行う民間団体の設立、そして、清水地域再生の核となる施設の整備です。そうして生まれたのが、弊社一般社団法人しろにしであり、有田川町移住就業支援拠点施設しろにしです。

自分たちが地域を変えていく一。私たちはそんな気概を持って、地域住民・地域事業者と手を携え合いながら地域貢献に取り組んでいます。

2 取組概要

弊社設立後、真っ先に取り組んだのが“ぶどう山椒収穫レスキュー”です。

2023 年夏、「豊作で取り手さんが足りない!」という山椒農家さんからの SOS を受け、援農ボランティア「ぶどう山椒収穫レスキュー」を企画・実施しました。すでに収穫シーズン中盤を迎えており急遽行った企画でしたが、首都圏や京阪神などからのべ 30 名にご参加いただきました（翌 2024 年はのべ 80 名、2025 年はのべ 85 名が参加）。現地までの交通費はもちろん、宿泊や食事も自己負担、完全ボランティア、暑い中の収穫作業にも関わらずです。



しかし、「集落で草刈りをしようと思っても、もう人手が 3 人しかいない」…そんな声が地元の人から聞こえてきました。過疎に苦しむ地域のお困りごとは、農繁期の人手不足だけではないことに気づきました。集落の草刈りや道普請、古くから伝わる有形・無形の文化財の継承、増え続ける耕作放棄地や空き家問題。これら地域のさまざまな困りごとに関係人口の手を借りる“地域維持レスキュー”のコンテンツとして、ぶどう山椒収穫レスキューや文化継承レスキューなどを展開しています。

3 取組前の地域の状況

過疎地域特有の一つの特徴とも言えるのかもしれませんが、ソフト面が置き去りにされたハコモノへの依存、他者批判・他者依存体質が垣間見える地域でした。しかし、それも無理はありません。地域住民の高齢化と人口減少により地域の力が弱まり、どうしても行政に依存してしまう一方で、行政はプレイヤーとはなりえず地域に踏み込んでいくにも限界があります。両者の歯車がかみ合わず、過疎が進行してしまう原因の一つがここにあります。補助金や交付金など、お金で解決できる話ではありません。この問題を解決するには、両者をかみ合わせるためのもう一つの歯車、地域側に立つコーディネーター役＝中間支援組織の必要性を感じていました。

4 地域の変化

弊社では“地域維持レスキュー”をはじめ地域事業者との連携・支援のほか、この地での暮らしをイメージしていただき、ひいては2地域居住・移住へと繋げるため、有田川ならではの鮎やモクズガニ漁などが体験できる“遊び暮らし体験”などの企画も行っています。

そんなソフト面の取り組みを進めていくなかで弊社の認知も少しずつ広がり、また地域住民が捉えていた弊社へのイメージも変わってきました。当初は、廃校をリノベーションした拠点施設の管理運営だけがクローズアップされ、ハコモノ整備の繰り返しとして思われていたものが、自分たちと一緒に考えてくれる中間支援組織として少しずつ浸透しはじめています。事実、ありがたいことにいくつかの地域団体や個別集落からもお声がけをいただいています。

5 アドバイス可能なこと

近年、地域づくりに関して「関係人口」というワードがよく取り沙汰されています。しかし、本質から外れた議論になっていく気がしてなりません。それは、いまそこに暮らしている人のための定住支援や暮らして楽しい地域づくりがあつてこそ。この目的なくして、「関係人口」に踊らされてはなりません。

そんな弊社が進める、定住支援に関係人口創出策を組み合わせた“地域維持レスキュー”をはじめ、弊社設立までの経緯や、設立後の中間支援組織としての役割や苦勞、取り組みについて、何かしらのヒントになればと思います。また、温泉施設や宿泊業を行う一般財団法人にも関わりはじめていることから、関係人口の入口となる観光面も含め、地域全体のコーディネーターとしてお話ができるかもしれません。

6 アドバイザー自身のPR

1968年、和歌山県西牟婁郡生まれ。富士通株式会社のグループ会社でシステムエンジニアとして勤務。有田川町役場に転職し、12年間人事を担当。2018年から5年間、産業課のち商工観光課の課長として「しろにし」の素案から立ち上げまで携わり、2023年、役場を早期退職して運営側へ。一般財団法人有田川町ふるさと開発公社の副代表理事も務める。



有田川町移住就業支援拠点施設しろにし

関係人口創出が移住に至るプロセス ～一般社団法人しろにしの考え方～

